

地域の歴史に思いはせ

旧正門から児童登校

松ヶ崎小
創立記念



創立記念日を祝い、かつての地域の本通りから南門を
通って登校する児童(京都市左京区・松ヶ崎小)

り壁の倉庫など当時の趣が残るが、20年ほど前からは幅の広い道路に面する東門が登下校に使われている。

今月初め、南門の両脇の柱に学校名と「児童通用門」と書いた銘板を新調。字は同小卒業生で日蓮宗本山・立本寺(上京区)の上田尚正貫首が揮毫した。

午前8時から児童が通りの景色を見ながら続々と登校。同小運営協議会理事長の岩崎猛彦さん(69)から見守る大人にあいさつし、南門から校舎に入った。岩崎さんは「私が子どもころ、学校は地域のシンボルで、ここが本通りだった」と懐かしんだ。同小は来年以降も創立記念日に南門

京都市左京区の松ヶ崎小の児童が18日、創立記念行事として、一帯が田畑だったころの地域の本通りに面し、かつては子どもたちが行き来する正門だった現在の南門を使って登校した。「地域の歴史に思いをはせる日に」

と初めて行い、児童が元気に門をくぐった。松ヶ崎小は1873(明治6)年4月18日に創設された。昭和初期ごろまで、松ヶ崎地域は田畑や竹やぶが広がり、学校南側の通りの脇に農家が並んでいた。通りには今も白塗

登校を続けるという。

(高元昭典)